

Brush Up Letter

2022年6月

Vol. 39

D&Nplusブラッシュアップセンターは、妊娠期から職場復帰、子育て期・介護期の医療職者をサポートします。

contents

- 開催報告「みなとKOBEMEDICALキャリアプロジェクト講演会」
- 病児・病後児保育「なのはな」

令和4年度第1回 みなとKOBEMEDICALキャリアプロジェクト講演会 若手医師のキャリア支援・各科の取り組み ～うちの医局の働き方を紹介します～

開催日: 2022年5月24日(火) 19:00～20:30



開催報告



コロナ禍で2年間中止となっていた「みなとKOBEMEDICALキャリアプロジェクト講演会」ですが、Zoomを使いWEBで開催することにいたしました。
令和4年度第1回目の今回は、若手医師のキャリア支援について、各診療科がどのような取り組みをされていらっしゃるのか、肝胆膵外科の小松先生と麻酔科の岡田先生のお二人にご講演いただきました。



肝胆膵外科 助教
小松 昇平 先生

神戸大学外科学講座では6つの診療科（食道胃腸外科・肝胆膵外科・心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺内分泌外科）が1つのユニットとして協力して活動しています。
現在、日本では全診療科における外科医の割合は、依然低値のまま推移しており、外科医獲得は社会全体の喫緊の課題です。神戸大学外科学講座では、主に4つの活動に力を入れています。

①労働環境の改善

夜間当直ではなく、夜間休日勤務者を1人置く体制へ移行(特殊な心臓血管外科と小児外科を除く4診療科で実施)したことにより、当直人員の大幅削減に成功し、時間外勤務の削減にも繋がっています。

②広報活動

Wet Laboやハンズオンセミナーを定期的に多数回行うことで、外科学一番の魅力ともいえる手術体験を通じて、外科に少しでも興味を持ってもらえるよう力を入れています。それ以外にもオンラインセミナーなど、外科の魅力を発信する試みを続けています。

③外科専門研修プログラムの強化

各自のライフプランに柔軟に対応できるよう自由度の高いプログラムを設定しています。

④関連施設プログラムの強化

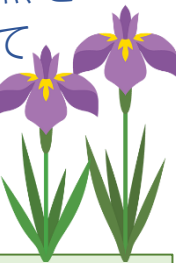
兵庫県、大阪府の基幹病院を中心とした全6つの関連プログラムを形成し、綿密に連携をとっています。今後も、神戸大学・関連病院双方の利点を最大限に活かす交流を続けていきたいと思っています。

従来の「365日24時間 医師であれ」から、「チーム医療を実践し、365日24時間患者さまに最善を尽くせ」への概念の転換こそが、次世代の外科医へ繋げていくマインドになると考えています。将来展望や未来に希望を感じることが出来る外科学へむけ、働き方改革・労働環境配慮・性別に関わらず外科医が活躍できる環境を整えていくことが、私自身の責務と思い、日々取り組んでいます。



麻酔科 助教
岡田 雅子 先生

神戸大学の麻酔科は医局員が57人と多く、若手医師と女性の割合が高い医局です。
近年は手術件数も増加し、より高い専門性が求められ、一層負担が増している状況の中、仕事への情熱を維持するために麻酔科で行っている3つの取り組みをご紹介します。



①労働環境について

麻酔科医局として初めて育休を取得した男性医師がおり、これまでの女性だけが産休育休を取って負担を強いられるという概念を覆し、男性も育児に参加することを体現してくれ、医局でも高い評価を得ています。麻酔科では、当直業務を専門医2名、専攻医2名の4人体制で行い、集中治療管理や深夜帯の緊急手術、長時間手術に対応できるようにしています。

②スキルアップ、スキルの維持

サブスペシャリティの取得は、専攻医、専門医を問わず随時受付しています。専攻医教育は毎年4月に新人医局員を対象に麻酔科医としての基礎的な知識を毎日講義し、6月以降はエコーを中心として実践的な勉強会を毎週行っています。

③メンタリティ

専攻医1人につき教員スタッフ1人がペアとなり指導する体制をとっています。基本的な知識や手技の教育、学会発表や論文作成のほか、様々な相談にのっています。また、全医局員に対しても科長または医局長による定期的な面談を実施しており、いつでも相談しやすい環境作りを心掛けています。

今後の課題としては、若い女性医師が多いということもあり、「辞めずに続けてもらうこと」を目指すのではなく、「キャリア維持・キャリアアップ」へ転換していくことが必要だと考えています。若手医師にはなるべく負担がかからないように気をつけていますが、同様にスタッフクラスの負担の軽減の取り組みも必要だと感じています。

情報交換の場ーこれから取り組むべき課題とは？

- * 子どものお迎えなど勤務時間に制限があると、長時間の手術に入れない、または手術の途中で抜けなければならない、子育てが今後のキャリア形成にとって不利な要素になる可能性があり、特に女性から外科が敬遠されている。小児外科など女性が活躍されている科もあるので、他の外科でも可能な限り、育児中の女性も働きやすい体制を整えていく必要がある。今後増えることが予想される男性の育休にも関わってくる問題だと思う。
- * 現在、育児中の女性医師は、オンコール免除や当直免除を行なっているが、今後は男性においても小さいお子さんがいれば当然「育児中」となるので、育休を取らなくてもオンコール免除や当直免除を取り入れるべきだという意見や希望が出てきているが、そうするとオンコールや当直をする人がいなくなってしまう。

他の診療科の取り組みを聞くことで見えてきた今後の課題を次回のテーマにしたいと思います。

参加者アンケート

- 各科の取り組みを教えていただき、育児休業法の改正についての情報提供もあり、大変充実した会となったと思います。ありがとうございました。次につながることを祈念しております。
- 自分の診療科では、働き方改革の対応の出遅れが感じられるので、他の科の取り組み状況などの情報交換を行いたい。男性育児休暇の情報も新しく、参考になった。
- 大変勉強になりました。色々考えるきっかけになりました。
- 2年後の働き方改革で大学病院医師の勤務状況がどうなっていくのか興味があります。
- 参考になるご意見を多く聞くことができました。ありがとうございました。
- 男性医師の育休取得や子どもの運動会への参加推奨など、時代の進化を感じ驚くととともに頼もしく嬉しく感じています。患者さんを大切にすることと働き方改革がうまく噛み合い両立できるよう期待しています。
- マンパワー、病院の定員が限られているなかで、制度として働き方改革で当直翌日の勤務フリーなどを構築し、かつ現状の診療態勢を維持することには困難が多い。また、男女ともに育休を自由な期間で希望した場合にその間の業務を補填できるだけのバッファーになる人員をどうするのか、いない場合には業務を縮小するか残った者が過重労働になり、医療の質が担保できなくなる。一方でバッファーになる人員は育休・産休になる人がいない場合には余剰人員になり、マネジメントが難しくなることに懸念を感じます。

ご講演いただきました小松先生、岡田先生、そしてご参加いただきました先生方ありがとうございました。

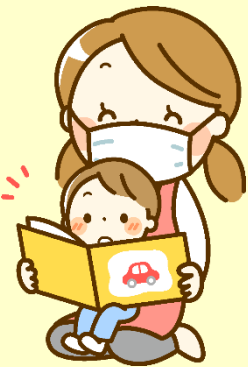


神戸大学 病児・病後児保育
な の は な

神戸大学の教職員、学生が養育するお子様を
対象とした病児・病後児保育室です



事前登録が必要となります。
QRコードから専用ページよりご登録
ください。専用ページでは、詳細情報をご
確認いただけます。



定員		2名 ※感染症対策のため定員を1名とする場合があります
保育時間		月～金 午前8時～午後6時
休室日		土日祝、12/29～1/3、その他大学が指定する日
利用対象		生後43日～小学校就学前までのお子様 ※教職員、学生が養育するお子様に限ります（委託業者の方は対象外）
登録方法		利用希望日の7営業日前までに登録ページにてWEB登録 （WEB登録後に電話面談があります）
予約方法		利用希望日の前日～当日午前6時30分までに 予約システムにてWEB予約
料金 いずれも 税込金額	利用料金	1日 3,000円、午前のみ 1,200円、午後のみ 1,800円
	延長料金	1時間につき2,000円
	キャンセル料	2,000円 ※当日午前6時30分以降のキャンセルが対象
	支払方法	毎月26日 指定口座より引き落とし



【発行】

神戸大学医学部附属病院
O&Nplus ブラッシュアップセンター



〒650-0032
神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5 地域医療活性化センター1階
TEL 078-382-5266/FAX 078-382-5837
MAIL brushup@med.kobe-u.ac.jp
HP <https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/dn/>